

宇治市で発生した市街地浸水および土砂災害

京都大学防災研究所
斜面災害研究センター

(H24年8月15日版)

文責: 王 功輝

8月14日の豪雨災害

8月14日に、京都府南部や大津市で記録的な豪雨が降った。宇治市によると、降り始めから(13日午前7時～14日午前10時40分)の累積雨量は311ミリ、時間最大雨量(14日午前3時～4時)は78.5ミリとなった。この豪雨により、宇治市において下記のように大きな災害が発生した。

- 宇治市志津川の民家1戸が志津川に流され、住民2人が行方不明になった。
- 弥陀次郎川(天井川)が決壊し、住宅街に土砂が流れ込んだ。また、多くの市街地で冠水被害が出ており、1400軒以上の家が床浸水した。
- 京滋バイパスは宇治トンネル東側付近の土砂崩れや西側付近の道路冠水などで、通行止めとなった。
- 土砂崩れや川の氾濫で道路が通行できず、笠取や炭山など4地区の745人が孤立している。
- 白川などの地区で、多くの斜面崩壊や地すべりが発生した。

斜面災害研究センターの教員が14～15日にこれらの災害を調査したので、その概要を報告する。以下に表示している、写真を取った場所のGPS座標はGARMIN GPSによるものである。

宇治市内での調査日程および場所

8月14日：菟道・三室戸・明星町・志津川＋宇治川(東禅院・天ヶ瀬ダム)＋白川



① 高速道路の被害

道路の冠水（京滋バイパス宇治トンネル西側付近）

N34° 54' 12.7" E135° 48' 16.9"





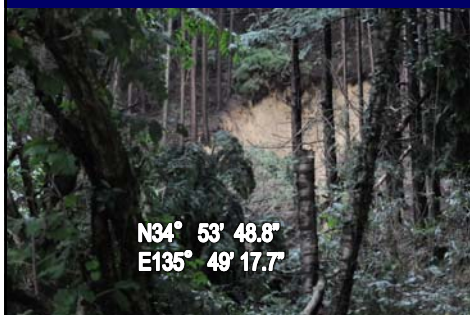
① 河川の氾濫と住宅街の浸水など



② 斜面崩壊



② 斜面崩壊



③ 志津川地区での被害



④ 宇治川沿いの土砂災害



N34° 53' 16.9"; E135° 48' 43.5"

④ 宇治川沿いの土砂災害



N34° 53' 12.1"
E135° 48' 44.8"

N34° 52' 53.4"
E135° 49' 19.9"





④ 宇治川沿いの土砂災害

N34° 52' 44.4" E135° 49' 40.1"



⑤ 白川地区での土砂災害

N34° 52' 39.9"
E135° 49' 15.6"



白川トンネル付近の土砂災害

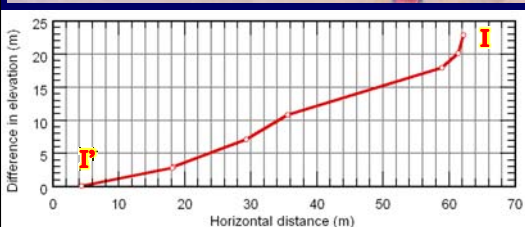
N34° 52' 26.5"
E135° 48' 37.5"



田圃の畔における崩壊

白川地区の地すべり⑥

N34° 52' 39.9"; E135° 49' 20.8"



測量した断面

白川の地すべり⑦

N34° 52' 43.3"; E135° 49' 28.4"



源頭部のパイピング

宇治市内での調査日程および場所

8月15日：木幡＋弥陀次郎川＋242号線沿い（炭山行き）



弥陀次郎川上流側の氾濫

流木：
悪の元

N34° 55' 4.2"; E135° 48' 14.6"

流木：
悪の元

N34° 55' 3.9"; E135° 48' 1.9"



弥陀次郎川堤防の決壊(天井川)

(N34° 55'12.7"; E135° 47'43")



弥陀次郎川堤防の決壊(天井川)



堤防の決壊



弥陀次郎川堤防の決壊(天井川)

現在の対策：
ポンプによる排水



府道242号線沿いの土砂災害

府道242号線に土砂が流出し、炭山と二尾地区の住民が孤立している



242号線の決壊

N34° 55'22.7";
E135° 49'15.6"

N34° 55'11.9";
E135° 49'30.2"



府道242号線沿いの土石流



道路に沿って堆積している

土石流沢

道路沿いの土石流堆積物:
長さ: 約205m
幅: 約20m
最大厚さ: 1.3m
平均厚さを0.7mとして、計算すると、
堆積土砂の量が約2900m³となる

N34° 55' 6.4"; E135° 49' 38.3"





土石流堆積物の
末端から見た様子

N34° 55'10.3";
E135° 49'33.2"



土石流堆積物の
末端から見た様子

N34° 55'10.3";
E135° 49'33.2"



潰された家

N34° 55'6.5";
E135° 49'37.8"



巻き込まれた車

N34° 55'8.1";
E135° 49'37.2"

地すべり調査進行中